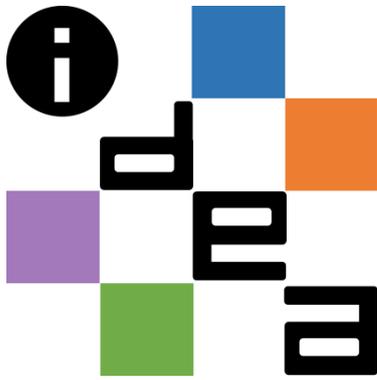


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア



2017

7月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|----------------|-------------------------|
| 2 | 二言三言 | 若き起業家に聞く！～一関で起業してみて～ |
| 4 | 団体紹介 | シンデレラの靴（大東） |
| 5 | 地域紹介 | 藤沢 第31区自治会（藤沢） |
| 6 | 企業紹介 | 有限会社 すずまーと（室根） |
| 7 | センターの〇〇 | センターの自由研究 旧町村・ご当地柄マンホール |

若き起業家に聞く！～一関で起業してみて～

対談者 にっぽんそらいと 日本空糸株式会社 代表 伊藤徳光さん のりみつ
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

ロープを使い、人が行けない場所に行く

【小野寺】1年前に日本空糸(株)(以下「空糸」)を立ち上げた伊藤さんですが、そもそもどんなことをしている企業なのか改めて教えてください。



日本空糸(株)
代表 伊藤徳光さん

【伊藤】「人が行けない所に行く」を生業にしていますが、実際にはどういう需要があるのかというと、インフラ関係の防災に関わる仕事が多いです。例えば皆さんが普段使っている橋。橋というのは全てが全て点検を前提に造っていないんですね、ビックリなことに。ですが、平成26年度に国交省から「橋梁点検要領」の改訂版が出て、その内容は5年に1度全ての橋の定期点検をし、しかも「近接目視」といって近くまで行き触って確認しなければならないというものだったんです。「さて、どうやって近くまで行こう？全部足場をつくってられないよ」と。そんな中、ロープアクセスというのが出てきたんです。ロープで素早く安全に目的地に行き問題がないか確認する、いわゆる調査部隊ですね。

あとは「岩壁調査」も行っています。山あいに道路を通す時は山を上下に切りますが、その時にどうしても岩壁が出てきます。その岩壁の落石を防ぐために落石防護柵を付けたりしますが、劣化や大雨でだんだんと状況が変わった時に、今後の対策をどうするか考えるための基礎調査をしたりもします。

【小野寺】いわゆる調査業者的な部分で、今までにな

かった視点をもっていますね。ニーズは広くあると思いますが、範囲としてはどのあたりまで？

【伊藤】北は北海道、南は名古屋まで行きました。

【小野寺】広く行ってるね。一関からの需要は？

【伊藤】肝心の一関からの需要はまだないです(笑)営業に行っても「えっ！一関にそんな会社あるの？」と言われるですね。一関に2千橋あるそうですが…。

【小野寺】そうなんだ。じゃあ、これからだね。

【伊藤】これからですね！

キーマンとの出会いが転換点に

【小野寺】なぜ起業しようと思ったのか、きっかけや理由を教えてください。

【伊藤】起業を考え始めたのは、小学生の頃だったと思います。なんだか就職のイメージが湧かなかったんですよね。“企業に勤めるだけが仕事”という風潮がよくわからなくて。うちの実家が自営で馬喰をして、のびのびと仕事をしているのを見て育ったというのもあるかもしれませんが…。

小学生の時に料理にはまり将来は自分のお店をもとう！と思ったんですが、中学生になり「料理ではないのかな」と考えが変わり、具体的なイメージが浮かばないまま3年間過ごしました。進路を考えた時に自然環境に関わる仕事をしたいと思って先生に相談したら、「化学を学べば環境関係の仕事に就けるよ」と言われたので高専に進学したんです。

高専で化学を学びましたがまだ具体的なビジネスモデルが浮かばず、でも、ただ企業説明会に行くのは嫌だなと思ったので、自分で就きたい企業を探して新潟に行きました。自然環境に関わる仕事ということで、そこで産業廃棄物を処理する仕事に就いたんですけど、そろそろ山の中に戻りたいと思い始めて。

【小野寺】そうだね。その頃に伊藤君が一関で何をしたいか一緒に話し合ったよね。

【伊藤】そうでしたね。その後、僕は京都の「株式会

社きいすとん（以下「きいすとん」）というロープアクセスの専門会社に勤めました。社長に「企業経営について教わりたい。なんならこの仕事も教えてくれ」って頼んだら「ええで」と。「よかったら一関で起業したらええやん」と言われたんです。



【小野寺】きいすとんには起業前提で入ったんだね。

【伊藤】そうですね。僕にとっては、きいすとんの社長に出会ったことが大きな転換点でしたね。

【小野寺】やっぱりキーマンとの出会いだよ。自分の想いだけでは躊躇するところが多いと思うんだけど。伊藤君の起業の背景としては、もともとやりたいことが最初から具体的に浮かんでいたわけじゃなくて、ぼふっとしたイメージから始まり、周りの人の言葉や経験を積み上げていくうちに形になっていった感じだね。

【伊藤】やっていて思うのは、人に恵まれたなということが一番ですね。小野寺さんもそうですし、ちょっと聞きにいけない相手がいること。起業するまでに右往左往したけど、右往左往したことによって色々な人と出会えたり、自分一人では無理だったなと思います。

【小野寺】起業している人って、意外とそういう人脈に恵まれている人が多いんじゃないかなって思ってます。きっと、色々なところで色々な人に助言をもらったり、刺激を受けたりするから起業できるんだろうなって思うよ。

「地域に働く場がない」と言うけれど…

【小野寺】起業してみてもおもしろい？

【伊藤】おもしろいですよ！おもしろいおもしろい！

【小野寺】起業することにためらいはなかったの？

【伊藤】ためらいはめっちゃありましたよ！でも僕が社長に言われたのは「色々積み上げて行って、何かできるようになって自信がついた頃にはもう遅い」って。「伊藤さんは考えすぎるし、情報を集めて集めて自分のモノにしてから動くやろ？でもそれじゃあ遅い。まずは形から入れ」って。「どうにもならない時は自分

の持っているモノで勝負するしかないんだから、“何ならやれるか”を考えながらやれ」と言われました。

【小野寺】そういう一言はありがたい助言だよ。起業するにあたり、やはりみんな「本当に大丈夫なのか？」とか、親からすれば「起業なんてやめとけ」とか「お前じゃ無理」「経営なんてできっこない」とか言うけど、そうじゃないよね。周りで起業している人もいるわけだし。今就職先となっているさまざまな企業は、それを立ち上げた起業家がいるから採用できるわけさ。誰かが一歩踏み出して起業していかないと、雇用の場なんて生まれないよね。

地域では「仕事がない」「働く場がない」というけど、じゃあどうしたらいいかとなると「工業団地を誘致すればいい」なんて話が出るんだよね。でも、それだと結局はモノづくり産業ばかりになるし、今の若い子が求めている仕事って意外とサービス業が多かったりするんだよね。企業誘致より、もっとやりたいことを仕事にしていく後押しをすることも必要なんじゃないかな。



事業所内にはロープアクセスの訓練塔があります

【小野寺】地域には、起業したいけどそれをためらっている人たちがいると思うんだよね。そんな人たちに伊藤君から何かメッセージをもらえないかな？

【伊藤】そうですね、自分の中に「これをやりたい」というものがあるなら、事務手続き的なことは言い訳にせず、まずやってみたらいいと思います。例え失敗して借金を抱えたとしても、死にはしないし。

【小野寺】やりたいことは、基本的にやった方がいいよということ。

【伊藤】やりたいことがないっていう人は、やることを増やせばやりたいことが増えるので、食わず嫌わずにまずは色々やってみれば、やりたいことがついてくるかなと思います。

基本情報

【日本空糸 株式会社】

〒021-0902 一関市萩荘字谷起島北方 194-13

TEL 0191-48-4046 FAX 0191-48-4047

団体 紹介



シンデレラの靴のメンバーのみなさん

～基本情報～

- ◆代 表：青柳 清 さん
- ◆連絡先：〒029-0523
一関市大東町摺沢街道下 25-3
- ◆電 話：0191-75-2229
- ※住所、電話番号は摺沢市民センター

社交ダンスで、楽しくコミュニケーション

若かりし頃の情熱をもう一度

社交ダンスサークル「シンデレラの靴」は、社交ダンス好き8名が集まり、平成13年に結成しました。現在は20代～60代の男女18名が会員となり室蓮ホール（摺沢市民センター）で毎週日曜日の夜に活動しています。

代表を務める青柳清さんが社交ダンスに興味を持ち始めたのは20代のころ。プロの先生から個人指導を受け、数々の大会で入賞するほどの腕前で、旧大東町内に勤労青少年ホームがあったころには会社勤めの傍ら、社交ダンスの講師として活躍していました。

「当時、勤労青少年ホームといえば、若者たちが仕事帰りに立ち寄り、自分が学びたいと思う講座やサークルを選んで活動していました。それが若者の娯楽であり、出会いの場でもあったのです。今はそういった場も少なくなりましたね」とふりかえる青柳さん。奥様との出会いも、「社交ダンス講座がきっかけだった」と照れ笑い。青柳さんご夫婦は「結婚後子育てが一段落したら、もう一度社交ダンスをしたい」という夢を現実にし、仲間とともにサークルを立ち上げたのです。

交流を図るダンスパーティー

同サークルでは、年3回（3月、6月、10月もしくは11月）室蓮ホールを会場にダンスパーティー（参加費1000円（軽食代込））を開催しています。社交ダンスの経験がない方でも楽しめるようにメンバーがリード（手を差し出す）し、社交ダンスを楽しみながらその魅力を広めています。「私たちが主催するダンスパーティーは、市内外から参加者が集まり、初心者でもダンスが楽しめる」と好評なんです。知らない人同士でも気軽に会話が弾み楽しめる場を提供することで、少

しでも多くの方が社交ダンスに興味を持っていただければ嬉しいですね」と青柳さん。「以前は地域の芸能文化協会が主催するイベントなどで社交ダンスを披露させていただいていましたが、現在は各種大会と重なり地域住民の方々に披露する場は少なくなりました。出来るだけオープンな地域のサークルとして、今後もダンスパーティーを通して、気軽に集える機会をつくっていきたいと思います」と意欲を見せます。

今後期待したい若者の参加

同サークルが参加する各種大会は公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）が主催するアマチュア大会と公益財団法人日本ボールルームダンス連盟（JBDF）が主催するプロ大会の2種があり、メンバーは日頃の成果を発揮し、それぞれ昇級を目指しています。

昨今はテレビの影響もあり、社交ダンスが「若者たちにも少しずつ浸透してきている」と語る青柳さんですが、現在の課題は「若い人たちの参加が少ないこと」とし「もっと若者に周知する機会があれば」と続けます。メンバーには20代が3人所属していますが「ダンスが上手い・下手に関わらず、この活動を通してたくさんの人と自然にコミュニケーションをとることができます。若者たちの集う場がない、出会う場が少ないということが地域課題の一つとして挙げられているようですが、『若者の居場所』の一つとして多くの若者が興味を持ってくれると嬉しいですね」と若者の参加率アップが今後の目標だと語っていただきました。



大会での1枚。

社交ダンスは健康維持や若さを保つのに最適です。ぜひ一緒に踊ってみませんか？

地域紹介



自治会長 皆川哲也さん（写真中央）
（自治会館で開かれる公民館居酒屋の様子）

～基本情報～

- ◆自治会長：皆川哲也さん（3期6年目）
- ◆藤沢町の北端にあり、千厩町と接している第31区自治会は、46世帯161人が暮らす中山間地域です。近年、自治会館に人が集い交流できるように様々な事業に取り組んでいます。

一人ひとりの気持ちで活動が生まれ、伝えることで広がっていく

みんなでつくり、支えてきた自治会活動

藤沢第31区自治会が結成された昭和50年は、藤沢町でも自治会協議会が組織されるなど自治会活動の機運が高まっていた頃でした。

今回お話を伺った自治会長の皆川哲也さんが一度地元を離れ、故郷に帰ってきた昭和58年頃に青年会を結成。この頃、全国的に綱引きブームが起り、31区でも若手を中心に「サンイチクラブ」を結成し、地元では負けなしの活躍を見せていたようで、自治会館にはトロフィーがたくさん飾られていました。ブームが落ち着き、チームも少なくなりましたが、今でも南三陸町のチームとは交流があり、31区が事務局となって一緒にチームを組み、昨年は韓国とのスポーツ親善交流に参加するなどの活動を続けています。

平成9年には活発な自治会活動が認められ、岩手県活力あるむらづくりコンクール優秀集落を受賞。平成24年に皆川さんが自治会長に就任し、平成26年には自治会結成40周年記念式典を館が森高原ホテルで開いて皆でお祝いをしました。「この式典は、青年会を結成した時に自治会の皆でお祝いしたことを思い出して企画したんだ」と皆川さんは微笑みながらその時の写真を見せてくれました。

「やってみたい」という気持ちを大切に

平成27年から、自治会女性部を中心に自治会館を使って「公民館居酒屋」事業を始めました。地域を盛り上げたいという女性の声から始まり、料理教室を兼ねて準備ができたなら男性陣も会費を持って自治会館に集まり、一緒に料理やカラオケなどを楽します。

31区では以前からお年寄りが外出したり、集まる機会が少ないことが課題となっており、公民館居酒屋の日の昼間はお年寄りが集まる時間「すずらんサロン」にして、手料理を振る舞います。この他にも、最近では女性陣有志によるスコップ三味線芸術団を結成し、

自治会外の行事に呼ばれるなど会員発案の活動が活発になっています。「お知らせはするけど参加の強制はしない。気持ちが前に出る活動でないと続かない」と継続のポイントを語る皆川さん。事業と合わせて自治会館のトイレを洋式化するなど、自治会館に人が集まる機会と誰でも利用しやすい工夫も重ねてきました。

伝え、知ってもらうことで理解と自信を

皆川さんは地域協働体「藤沢町住民自治協議会」の立ち上げや地域づくり計画の策定時に新沼地区の地域協働推進員として関わった経験を活かし、自治会報や会議資料などによる情報発信にも力を入れています。

自治会報には31区内のことだけでなく、自治会とつながりのある藤沢全体の動きももりこみ、地域の動きを意識してもらえるようにし、総会資料では報告や事業計画を地域づくり計画の分野に対応させた見せ方にしたり、道路補修などの行政からの支援があった際は必ずその事も記載しています。

「小さな活動かもしれないが、やっていることを外部にも内部にも知らせなければ、理解も自信も得られない。地域の力で課題解決に取り組んでほしいという要請も増えてきたが、新しい事を始めなければと思うと混乱を招いたり、やらされ感が出てしまう。今の活動に当てはまるものはないか、発展させることで解決できないか考え、分かりやすく見せてあげることが必要」と発信することの大切さを語る皆川さん。「地域だけでなく仕事や子育てなどもあるが、寄り集まってやることの楽しさも伝えていきたい。そのためにもまずは一人ひとりがやりたいことをやる。庭造りや料理など何でもいいので、好きなことをやる中で隣近所の交流に広がっていただければいい」とこれからのコミュニティのあり方についても話されていました。



地域の行事で活躍中のスコップ三味線

企業紹介



代表取締役 鈴木市郎さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：鈴木市郎さん
- ◆連絡先：〒029-1201
一関市室根町折壁字大里 122-1
- ◆電話：0191-64-2220
- ◆FAX：0191-64-2325

次世代へつなぐ小さな町の大きな台所

一代で築き上げた地域のスーパーマーケット

昭和56年創業の有限会社すずまーとは、室根町内に店舗を構える総合食品販売店です。生鮮食品やアルコール類のほか、地元食材を使用した総菜や地元名菓も取り扱っています。

「私が子どもの頃、両親は農業をしながら履物屋を営んでいました。若いころは、千葉県内の総合販売店に勤め、主に電化製品を取り扱っていました」と語るのには、同社代表取締役の鈴木市郎さんです。

鈴木さんは「長男だからいずれは故郷に帰らなければ」という思いがあり、30歳を目前にUターンを決意。「地元に戻ったら、地域に役立つように生鮮食品を取り扱うスーパーマーケットを立ち上げようと決意していた」と語ります。当時の勤め先に願い出て、これまで携わることのなかった生鮮食品を取り扱う部門に異動し1年間経験を積みました。

「鈴木『すず』とマーケットの『マート』を掛け合わせ、お客様が親しみやすいように」と故郷に戻りすずまーと1号店（町1丁目）を開店。敷地面積40坪、家族経営でのスタートでした。当時は役場の近く、バス停の近くということもあり多くの方々立ち寄った地域のスーパーマーケットでしたが、開店から7年、車社会が発展し「駐車場のある店舗」を考えなくてはならなくなり、昭和63年に1号店から気仙沼街道を約600m東方向に進んだ先に広い駐車場を完備した2号店（折壁字大里）をオープンしました。

次世代へバトンを渡す

「店舗運営のほとんどは息子夫婦に任せています」と話す鈴木さん。鈴木さんは一関商工会議所室根地域運営協議会の会長を務めたほか、室根ライオンズクラ

ブの会員として、駅周辺の清掃活動や老人ホーム等での草刈り作業などこれまでお世話になってきた地域に感謝を込めてボランティア活動に力を入れています。

また、町中にある旧店舗は「空き店舗活用として何かに使用していただけるとありがたい」と、旧暦うるう年の翌年に開催される国の重要無形民俗文化財「室根神社特別大祭」の際、神宮の社務所として開放しているとのこと。

地域のスーパーならではの体験学習

同社では、町内の小学生を対象に企業見学の受け入れを行っています。「店の表面部分だけでなく、鮮魚や精肉がどのようにして、店内に並べられていくのか、そういった様子も学んでもらいたいと、加工作業工程も見学させています。子どもたちは目を輝かせ、驚きながらも真剣に学習しています。今、町内には『すずまーと』以外スーパーがありません。大手のスーパーとは違い品揃えにも限りはありますが、子どもたちにも喜んでもらいたい」と語る反面「目に見えて子どもが減少している」と、昔のように子どもたちが賑やかに買い物をする姿を見かけなくなったことが寂しい様子でした。

最後に「家族経営から始まったすずまーとも、おかげさまで従業員15名となり、店をすっかり任せられる後継者も育てることができました。今後もできるだけお客様の利便性にお応えできるようにと、お正月以外休まず営業していきま〜と地域に育ててもらった感謝の思いを語ってくれました。



鈴のマークのすずまーと、販売しているお野菜の一部は地元農家さんと契約し直売をしています。

センターの ○○!



旧東山町のカラーマンホール蓋（展示用）
画像提供：一関市役所東山支所

今回は、地域担当スタッフが移動中に発見した旧町村の汚水マンホール※をご紹介します。それぞれの地域の特色や象徴的なものをモチーフにしているデザインマンホール。普段よく見かけるけど、「しっかり見たことがない」という方も多はず！ぜひこの機会にじっくりとご覧ください♪
※マンホールには様々な種類がありますが、今回は汚水マンホールを特集しています。

一 関

厳美溪の風景に市の鳥オシドリ、その右側には一関市の市章が描かれています。後方にある橋は、厳美溪の上流に架かっている「長者滝橋」です。



川 崎

「おらが自慢のでっかい花火」で知られる川崎町。旧村のマンホールはやっぱり北上大橋をバックに盛大な花火！今年の夏も楽しみです。



花 泉

旧花泉町の町の花は桜。その桜がマンホールの蓋にびっしりと描かれています。さすが、花のまち「花泉町」です。中央は旧町章です。



藤 沢

「マーチングの町・藤沢」ならではのマーチングをしている風景が描かれているマンホール蓋。FMA（藤沢マーチングの略）と描かれた旗を持った町の鳥ヤマバトを先頭に、トランペット、ドラムと続きます。音符なども描かれ見ていると楽しいマンホールです。



大 東

旧大東町のマンホールは、町の木けやき・町の花つつじ・町の鳥ウグイスが描かれ自然豊かな環境をマンホールの蓋に表しています。



続いて藤沢地域内のマンホール。縄文人（※下記写真）をモチーフにしたデザインなのですが、上下左右の位置が不明でした。

藤沢市民センター前の縄文人モニュメント



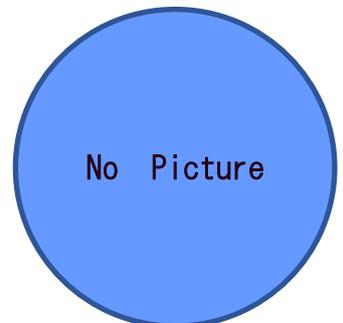
千 厩

中央に大きく旧町章が描かれ、その周りを囲むように町の花やまゆり、町の鳥ウグイス、馬の横顔が描かれています。千厩といえば馬産地として有名でした。



室 根

旧室根村は下水集合処理外地域であり、個別の浄化槽に対応しているため「汚水のマンホールはない」とのこと。もし、ご当地柄マンホールがあるとしたらどんな柄だったのでしょうか？



東 山

東山町といえば狛鼻溪。岩手県で最初（1923年10月8日）に、国の名勝に指定されました。溪谷を背に、船に乗るお客さんと船頭さん。今にも船頭さんの歌が聞こえてきそうです。



今回の自由研究「ご当地マンホール！」汚水マンホール以外にも様々なマンホール蓋がありますので、面白い柄のマンホール蓋を探しながら地域を探検するのも楽しいと思いますよ。
ただし、車道は危険ですので避け、くれぐれも周囲の安全を確認してくださいね！（無事に帰るまでがマンホール蓋観察です）

おしらせ

大東

2017どろんこバレー
in 羽根折沢

羽根折沢自治会青年部が中心となり計画する“どろんこバレー”を今年も開催します。どろんこになれる男女(年齢不問)で、遊び心と健康に自信のある方6人を1チームとし、全部で12チームを募集します。
※7月14日(金)までにお申込ください。

【日時】平成29年8月6日(日)12時開会式
【場所】大東町摺沢字下羽根折沢地内
【参加料】1チーム6,000円
(大会後の懇親会費含む)
【問合せ】090-7520-6292(佐藤)

一関

まちづくりコーディネーター
養成講座

地域づくり活動における基本的な考え方や進め方、知識を身につけて、まちづくりコーディネーターになる！①地域づくり概論②話し合いの仕方③事務局運営④情報発信の全4回講座です。
※各回1週間前までにお申込ください。

【期日】①終了②終了
③7月1日(土)④7月22日(土)
【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室
【参加料】2,000円(全4回分)
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

一関

わが子の自立・就職を応援する
保護者のつどい

家で長い時間を過ごしている子どもの自立・就職を応援したいけどどうしたらいいかわからない…。そんな悩みをもつ保護者の方を対象に、全3回の学びの集いを開催します。1回目のテーマは「就職・自立に悩みを持つわが子に親ができること」です。

【期日】①平成29年7月8日(土)
②10月14日(土)③平成30年1月13日(土)
【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室
【参加料】無料
【問合せ】0191-48-4467(いちサポ)

室根

トモダチツクろう♡青空 Camp2017
～ミニ運動会～

室根山と青年ふれあい塾では、室根山の自然を満喫しながらBBQを楽しむ若者交流イベントを開催します。対象は20歳以上の独身男女各20名です。動きやすい服装と靴でご参加ください。※7月13日(木)までにお申込ください(先着順)。

【日時】平成29年7月22日(土)13時～18時30分
【場所】望洋平キャンプ場
【参加料】男性3,000円、女性2,000円
【問合せ】0191-64-2347
(室根市民センター内同実行委員会)

一関

いまさらナイト

～改正個人情報保護法と情報セキュリティ～

「いまさらだけど聞いてもいいですか？」というような内容をテーマにした講座「いまさらナイト」。1回目はリコー・ジャパン(株)の方を講師に「情報セキュリティ」について学びます。5月30日より改正になった個人情報保護法のポイントと併せ、情報漏洩を防ぐ「多層防御」を学びます。

【日時】平成29年7月26日(水)9時30分～11時
※要申込(締切7月19日(水))
【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室
【参加料】無料
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

一関

ヨソモノさんいらっしゃい
「ヨソモノさん VISIT」

一関市に転入・移住・Uターンしてきた人たちが「集落視察団」となり、市内の各地域を地元の人と交流しながら散策、ヨソモノさんならではの視点をお土産に置いてくるという企画です。今回は弥栄・平沢地区。散策後はランチ交流会を行います。※先着10名、9月1日(金)までにお申込ください。

【日時】平成29年9月9日(土)11時～14時
【場所】弥栄地域内 平沢地区
【参加費】2,000円(交流会での飲食代込)
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

地域づくり活動のお助け本「+NOTE」(タスノート)が完成しました！

地域づくりに取り組む皆さまの一助にしたいからこそ、地域づくり活動に必要な基本的な知識から、いちのせき市民活動センターのスタッフ一人ひとりが持つノウハウをこの本にぎゅっと凝縮しました！

本書は地域づくりの概論から始まり、地域協働の進め方、話し合いの仕方や各種手法の紹介、規約(定款)の作り方、団体設立の仕方、事業運営のコツ、助成金の考え方・活用、情報発信の仕方、事務局の役割など全7章で構成しています。「+NOTE」が皆さんのスキルに「プラス(+)」になり、

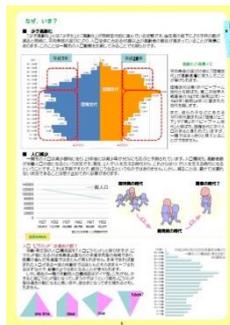
時には「お『たす』け役」になりますよう、ぜひご活用ください。

お問い合わせは、いちのせき市民活動センターまたはせんまやサテライトまでお願いします。なお、冊数に限りがありますので、ご了承ください。

【価格】1,000円
【ページ数】60P(フルカラー)
【問合せ】0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)
【発行】NPO法人レスパイトハウス・ハンズ
(いちのせき市民活動センター)



表紙



中身の見本

今月の表紙



5月30日、日形の船着き場に2隻の船が！日形にゆかりのある黒沢尻の船頭・清五郎の歴史を辿り、北上市の歴史愛好家たちが川崎から日形まで約40分の船旅を楽しみました。日形の船着き場に船が着いたのは数年ぶり。これを機に活用しようという動きもあるようです。

Q & A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 認可地縁団体って何ですか？

A 不動産などを保有する目的のある自治会、町内会等(一定の区域に住所を有し、広く地域社会の維持、形成を行い、地域的な共同活動を行っている団体)に与えられる法人格です。これまで自治会が保有する財産は、自治会名義では不動産登記ができませんでしたが、この認可地縁団体ができたと、財産を自治会等の名義で不動産登記できるようになりました。

